

InterSec/MW400n

セットアップ手順説明書

InterSec/MW400n

InterSec/MW400n アプライアンスパック (S)

InterSec/MW400n アプライアンスパック (M)

InterSec/MW400n アプライアンスパック (L)

改版履歴

版数	改版日付	内容
1	2024年8月	新規作成

法的情報

- Copyright © NEC Corporation 2024
- NEC、NEC ロゴは、日本およびその他の国における日本電気株式会社の商標および登録商標です。
- Red Hat および Shadowman logo は、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. の商標または登録商標です。
- EXPRESSBUILDER および ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。
- CLUSTERPRO® X は日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。
- そのほかの会社名ならびに商標名は各社の商標または登録商標です。なお、本文中では TM や® は明記していません。
- 本書の内容は、日本電気株式会社が開示している情報の全てが掲載されていない場合、または他の方法で開示された情報とは異なった表現をしている場合があります。また、予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご承知おきください。本書の制作に際し、正確さを期するために万全の注意を払っておりますが、日本電気株式会社はこれらの情報の内容が正確であるかどうか、有用なものであるかどうか、確実なものであるかどうか等につきましては保証いたしません。また、当社は皆様がこれらの情報を使用されたこと、もしくはご使用になれなかったことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。本書のいかなる部分も、日本電気株式会社の書面による許可なく、いかなる形式または電子的、機械的、記録、その他のいかなる方法によってもコピー再現、または翻訳することはできません。

目次

1 章 はじめに	1
2 章 インストール	2
2.1. パーティション構成とハードディスク増設の指標について	3
2.2. RAID 構成の構築	6
2.3. インストールディスクによるインストール	7
3 章 初期セットアップ	9
3.1. 初期 IP アドレスの設定	9
3.1.1. ディスプレイ/キーボードによる手順	10
3.1.1.1. MW400n へのログイン	11
3.1.1.2. 初期 IP アドレスの変更	12
3.1.2. クライアント PC(ブラウザ)による手順	15
3.1.2.1. Web 接続用クライアント PC の準備	16
3.1.2.2. LAN ケーブルでの接続	16
3.1.2.3. 初期 IP アドレス変更 Web 画面への接続	17
3.1.2.4. 初期アドレスの変更	18
4 章 初期導入	20
4.1. 初期導入について	20
4.2. 初期導入の流れ	20
4.2.1. 初期導入の準備	21
4.2.2. 初期導入画面への接続	21
4.2.3. 初期導入の実行	23
5 章 注意事項	30
6 章 付録	31
6.1. LAN ポートとインタフェース番号について	31
6.2. ESMPRO/ServerAgentService を利用する	32
6.3. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する	33
6.4. RAID 構成を確認する	34

ごあいさつ

このたびは、アプライアンスソフトウェア製品である「InterSec/MW400n」(以下、MW400nと記載)をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
アプライアンスソフトウェア製品とは、特定の Express5800 サーバにインストールすることでオペレーティングシステムと必要なアプリケーションを集約する製品です。
MW400n はインターネットビジネスに欠かせない高度なメールサービス、DNS サービスなどの提供を目的とした NEC の InterSec 製品の 1 つです。
本書は、初期導入を含む初期セットアップ手順を中心に構成されています。
本製品をお使いになる前に必ずお読みください。

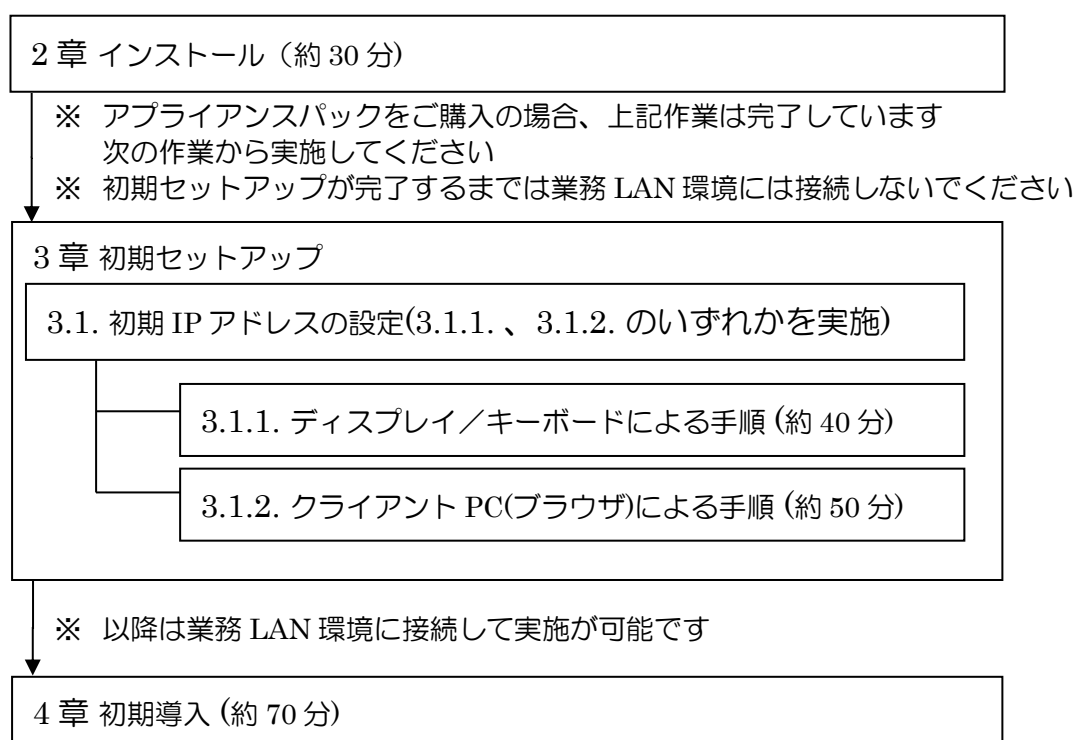
MW400n は以下のサーバ製品でのご使用が可能です。

- N8100-3004Y / Express5800/R110m-1

1章 はじめに

本書では、MW400n のインストール、初期セットアップ(初期 IP アドレスの設定手順と初期導入手順)について説明します。

初期導入では、MW400n をお客様環境で導入するための準備作業を行います。
インストールから初期導入までの流れは以下のとおりです。



上記の時間は合計所要時間(目安)です。本体装置のディスク構成によっては、時間が前後する場合があります。

2章 インストール

MW400n をハードウェアにインストールします。



アプライアンスパックをご購入のお客様は、本作業は完了しています。
「3章 初期セットアップ」に進んでください。

RAID 構成で構築されている場合は、「2.1. パーティション構成とハードディスク増設の指標について」をご確認の上「2.2. RAID 構成の構築」または「2.3. インストールディスクによるインストール」に進んでください。

2.1. パーティション構成とハードディスク増設の指標について

InterSec/MW400n のパーティション構成は以下の通りです。

システムパーティション、ログ領域のサイズは固定です。

実際に使用可能なサイズは下記サイズより少なくなります。

	RAID 構成 (RAID または RAID5)	RAID 構成 (RAID または RAID5)	
	ドライブ#1 のみ	ドライブ#1	ドライブ#2
システムパーティション	26GB	26GB	—
ログ領域 (var パーティション)	69GB	69GB	—
データ領域 (home パーティション)	残り全部 (*1)	—	残り全部 (*1)
データ領域 (ミラーパーティション)	指定サイズ (*2)	—	指定サイズ (*2)
その他領域	メモリ搭載量 (*3)	メモリ搭載量 (*3)	—

(*1) 二重化(フェイルオーバークラスタ)構成の場合、10GB 固定になります。

(*2) 二重化(フェイルオーバークラスタ)構成の場合にのみ必要です。

サイズは初期導入時に指定できます。10GB 以上のサイズが必要です。

初期導入後に拡張、縮小することはできません。

(*3) ダンプ格納領域を含むため、メモリ搭載量分を確保します。

各パーティションの主な使用用途は以下の通りです。

	主な使用用途
システムパーティション	OS などシステムが使用します。 スワップ、/root、/boot 領域が含まれます。
ログ領域 (/var パーティション)	ログやメールのプール領域として使用します。 二重化(フェイルオーバークラスタ)構成時には、メールのプール領域はミラーパーティションを使用します。
データ領域 (/home パーティション)	アカウントのホームディレクトリや、メール格納、メールリングリスト、WEBMAIL-X などの領域として使用します。 二重化(フェイルオーバークラスタ)構成時には、ミラーパーティションを使用します。
データ領域 (ミラーパーティション)	二重化(フェイルオーバークラスタ)構成時における、メールプール領域や仮想ドメインアカウントの各種データ格納領域として使用します。
その他領域	ダンプ格納領域(/var/crash)が含まれます。

搭載するハードディスクは、前述のパーティション情報をもとに利用者数(利用メールアドレス数)に応じて選択してください。以下は、利用用途による構成指標です。

■ メールプールサーバ利用

利用者数（利用メールアドレス数）に応じて選択してください。

例) 1 メールアカウントあたり 200MB をプールとして割り当てると仮定した場合

100 メールアカウント → $200\text{MB} \times 100 = \text{約 } 20\text{GB}$

500 メールアカウント → $200\text{MB} \times 500 = \text{約 } 100\text{GB}$

■ 全メール保存オプション利用

全メールの転送先を自サーバにする場合、最大構成を推奨します。

他サーバに転送する場合は、メールプールサーバとして利用時と同等を推奨します。

■ InterSec/MW WEBMAIL-X 利用時

利用者数(利用メールアドレス数)と利用状況に応じて、HDD 構成を選択してください。メールデータを集中管理する場合は、最大構成を推奨します。

POP 接続(各クライアントでのメールデータ保存)と併用する場合は、メールプールサーバ利用時と同等を推奨します。

※ 指標は参考値です。ご利用の環境によっては、データが当てはまらない場合がございますのでご注意ください。

2.2. RAID 構成の構築

前項の MW400n インストールのディスク構成サイズ、パーティションに関するディスク構成に沿わない場合は、RAID 構成の再構築を行う必要があります。

RAID 構成の状況が不明な場合は、「6.4. RAID 構成を確認する」の手順に従い RAID の構成を確認してください。

RAID 構成に関する論理ドライブの構成手順についての詳細は、「メンテナンスガイド（共通編）」や、RAID コントローラーに添付の説明書を参照してください。

2.3. インストールディスクによるインストール

「インストールディスク」を使って初期 IP アドレスが設定できるように準備します。以下の手順を行ってください。

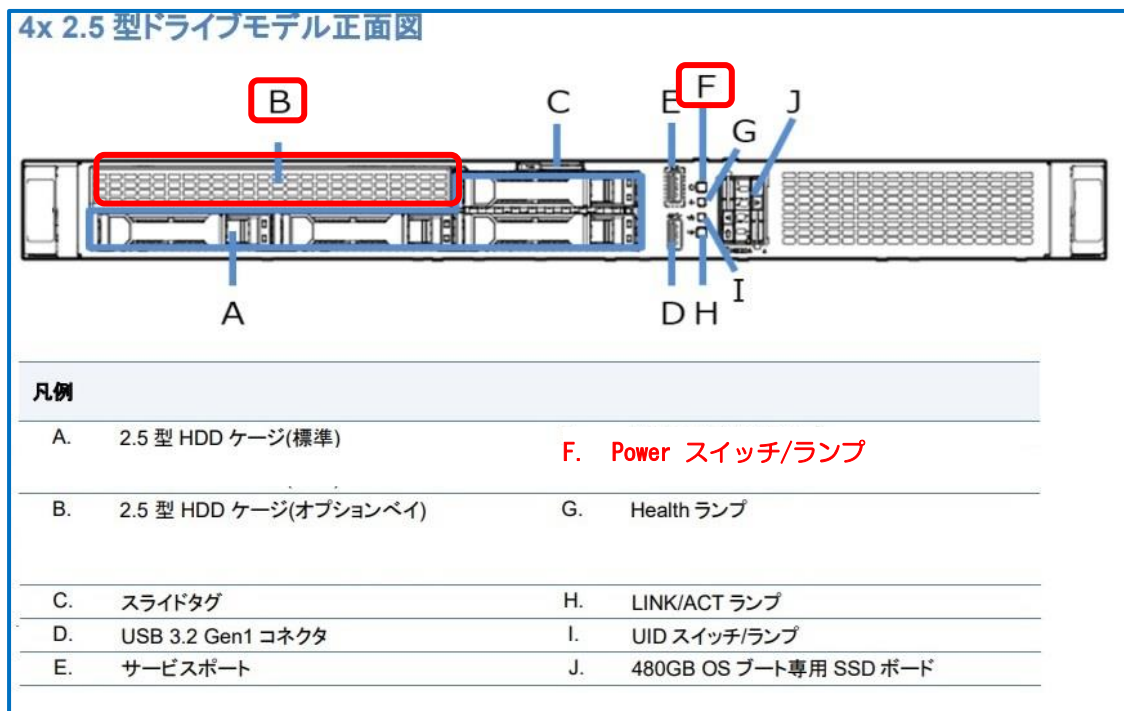


再度、インストールディスクによるインストール手順を実行する場合は、本体装置内の全データが消去されます。必要なデータが本体装置内に残っている場合は、データのバックアップを行ってから操作を実行してください。

(1) 「インストールディスク」から起動します。

本体装置の POWER スイッチを押して電源を ON にし、「インストールディスク」を本体装置の光ディスクドライブに挿入してください。約 1 分後に、自動的にインストールが開始されます。

● N8100-3004Y / Express5800/R110m-1



※ InterSec 製品では「B」位置には光ディスクドライブが搭載されています。



インストールディスクから起動すると無条件にインストールを実行します。本体装置の光ディスクドライブにインストールディスクを挿入したままにしないでください。

(2) 約 30 分でインストールが完了します。

インストールが完了するとディスプレイに「Installation complete. Press enter to reboot.」のメッセージを表示します。

```
Configuring addons
.
Generating initramfs
.
Running post-installation scripts
Installation complete. Press enter to reboot.
```

[Enter]キーを押すと本体装置の再起動を開始し、インストールディスクが自動的にイジェクトされます。「インストールディスク」を取り出し、光ディスクドライブを閉じてください。

POST 画面が表示されたら、電源ボタンを押下し、電源を OFF します。

30 分以上待ってもインストール完了のメッセージが表示されない場合はインストールに失敗している可能性があります。

失敗していると考えられる場合は、再度(1)から実施してください。



インストールが終了しない(失敗する)場合、以下を確認してください。

- RAID 環境の状態が正しいか確認してください。
(「6.4. RAID 構成を確認する」参照)
- ハードウェアが以下であるか確認してください。
N8100-3004Y / Express5800/R110m-1

3章 初期セットアップ

MW400n をお客様のネットワーク環境に接続するため、初期 IP アドレスの設定が必要となります。初期導入については、「4章 初期導入」を参照してください。

3.1. 初期 IP アドレスの設定

MW400n インストール後のネットワーク構成は、以下のとおり設定されています。

LAN インタフェース	: LAN1(eno1)
IP アドレス	: 192.168.250.250
ネットワークマスク	: 255.255.255.0
ホスト名	: intersec.domain.local

お客様のネットワーク環境に応じたネットワーク構成で初期導入を行えるようにするために、初期 IP アドレスを変更することができます。

初期 IP アドレスを変更しない場合は、「4章 初期導入」へお進みください。

初期 IP アドレスの変更には、以下の2種類の手順があります。

お客様環境に合わせて、いずれかの手順を実施して初期導入へとお進みください。

(1) ディスプレイ/キーボードによる手順

本体装置に接続したディスプレイとキーボードを使って、IP アドレスを指定後、初期導入へ進むことができます。

詳細は「3.1.1. ディスプレイ/キーボードによる手順」をご覧ください。

(2) クライアント PC(ブラウザ)による手順

本体装置と LAN 接続したクライアント PC(Windows PC)のブラウザ画面から初期 IP アドレスを指定後、初期導入へ進むことができます。

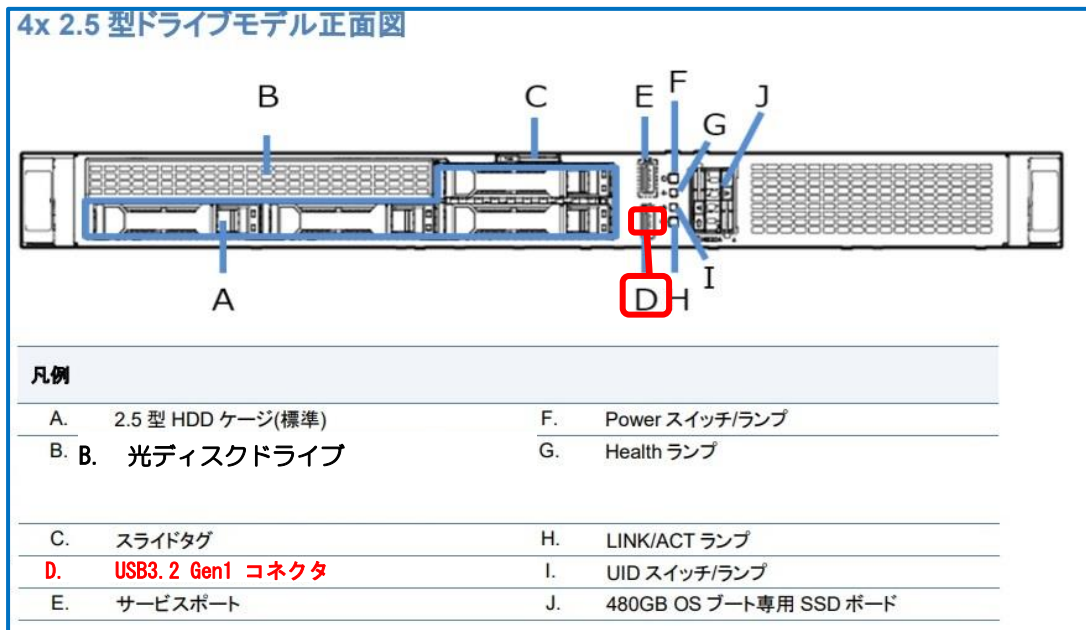
詳細は「3.1.2. クライアント PC(ブラウザ)による手順」をご覧ください。

3.1.1. ディスプレイ/キーボードによる手順

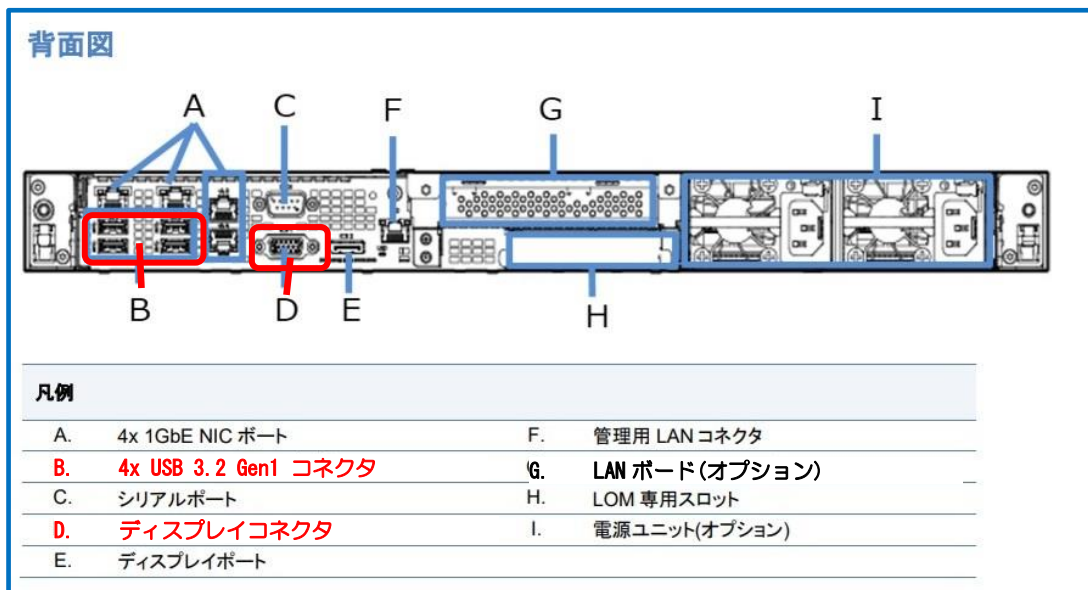
ディスプレイ、キーボードを本体装置に接続してください。接続後、本体装置の電源ボタンを押して起動してください。

ディスプレイ、キーボードの接続は以下の図を参照してください。

- N8100-3004Y / Express5800/R110m-1



※ InterSec 製品では「B」位置には光ディスクドライブが搭載されています。



3.1.1.1. MW400n へのログイン

MW400n が起動すると以下のログイン画面が表示されます。

```
Red Hat Enterprise Linux 8.8 (Ootpa)
Kernel 4.18.0-477.21.1.el8_8.x86_64 on an x86_64

intersec login:
```

ログイン名「root」でログインしてください。

ログインユーザ名、パスワードは以下のとおりです。

ユーザ名 : root

パスワード : **初期パスワード(※)**



- ・ ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・ 初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しているパスワードを入力してください。

3.1.1.2. 初期 IP アドレスの変更

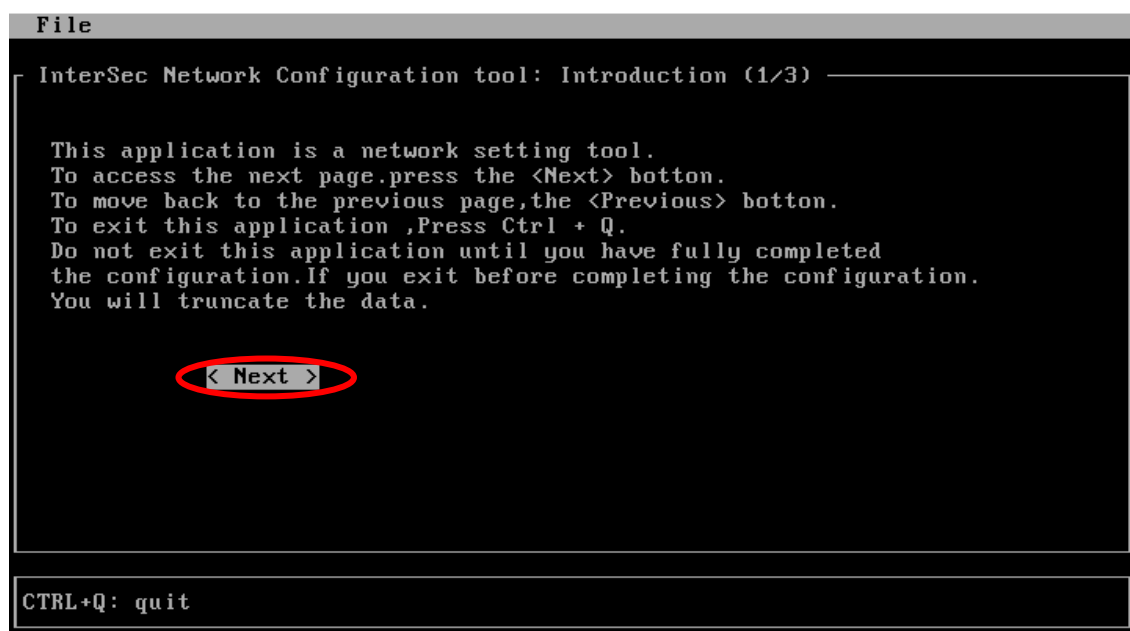
- (1) 初期 IP アドレス変更コマンドの実行

root アカウントのプロンプトから以下のコマンドを実行してください。

```
intersec-init-c
```

- (2) イントロダクション画面が表示されます

[< Next >]を選択([Enter]キーを押下)してください。



(3) IP アドレス情報の入力画面が表示されます。

IP アドレス(IP address[*])、ネットマスク(Netmask[*])、Gateway の項、それぞれに対してアドレス情報を入力します。入力が完了したら[< Next >]を選択してください。

[*]は入力必須項目です

```
File
InterSec Network Configuration tool: Network (2/3)
Please input your InterSec server ip address and netmask.
The gateway is optional.
The "[*]" means information is required.
To access the next item,press the <TAB> key.

IP address[*]:      [ _          ]
Netmask[*]:        [ _          ]
Gateway:           [ _          ]

< Previous > < Next >

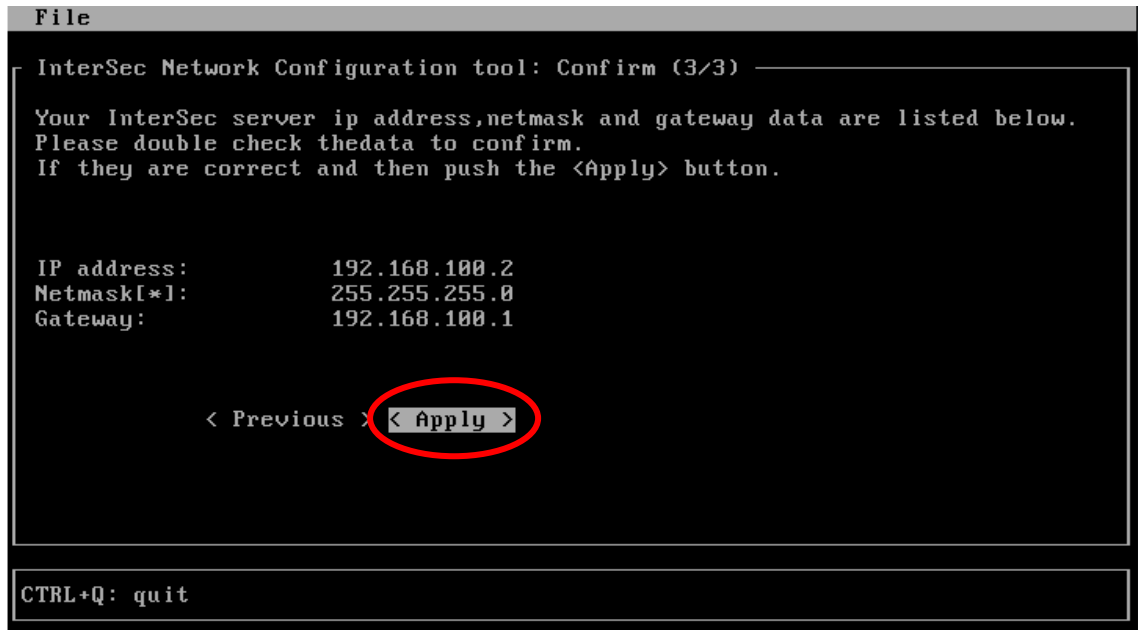
CTRL+Q: quit
```



IP address はネットワーク上の他の機器と重複しないアドレスを設定してください。重複したアドレスを設定した場合、本機器の初期導入が行えなくなる可能性があります。

(4) 確認画面が表示されます。

入力した内容を確認してください。入力した内容に問題がなければ[< Apply >]を選択してください。ネットワーク設定を行います。修正する場合は[< Previous >]を選択し、(3)からやり直してください。



(5) 完了画面が表示されます。

[< OK! >]を選択してください。入力された IP アドレスが有効な状態になります。

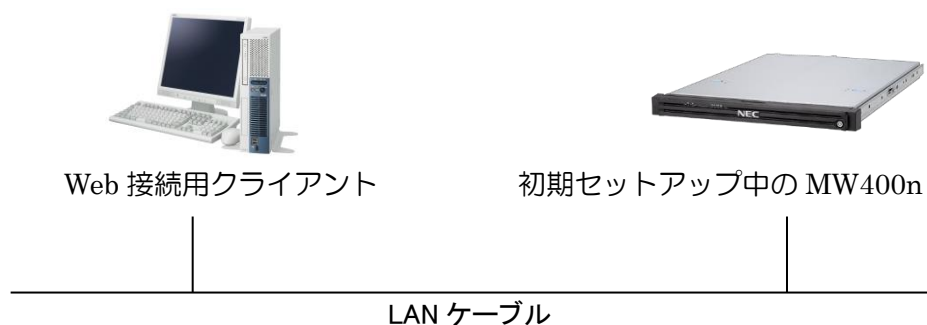


以降は「4章 初期導入」の手順に従い、初期導入を開始してください。

変更した初期 IP アドレスを確認する場合は、「6.3. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する」を参照してください。

3.1.2. クライアント PC(ブラウザ)による手順

本体装置とクライアント PC の準備を行います。



項目	説明
Web 接続用クライアント PC	Microsoft Edge から Web 接続して初期 IP アドレスを変更します。
初期セットアップ中の MW400n	初期 IP アドレスは以下のとおりです。 LAN ポート : LAN1(eno1) IP アドレス : 192.168.250.250 ネットワークマスク : 255.255.255.0 ホスト名 : intersec.domain.local
LAN ケーブル	クライアント PC と MW400n サーバの LAN インタフェース (LAN1(eno1))に接続します。



LAN ケーブルを接続する場合の LAN ポートとインタフェース(eno)については、「6.1. LAN ポートとインタフェース番号について」を参照してください。

3.1.2.1. Web 接続用クライアント PC の準備

Web ブラウザを介して本体装置の初期 IP アドレスを変更するために使用するクライアント PC(Windows PC)を用意してください。

クライアント PC の IP アドレスは、本体装置と同じネットワークの IP アドレス(例：192.168.250.1)を設定してください。

3.1.2.2. LAN ケーブルでの接続

クライアント PC と本体装置を LAN ケーブルで接続後、本体装置の電源ボタンを押して起動してください。

本体装置の起動後、背面の「LINK」ランプが点灯していることを確認してください。クライアント PC から ping コマンドなどを使用して接続可能な状態であることを確認してください。

[実行例]

```
C:\> ping 192.168.250.250

Pinging 192.168.250.250 with 32 bytes of data:

Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128
Reply from 192.168.250.250: bytes=32 time<1ms TTL=128

Ping statistics for 192.168.250.250:
    Packets: Sent = 4, Received = 4, Lost = 0 (0% loss),
    Approximate round trip times in milli-seconds:
        Minimum = 0ms, Maximum = 0ms, Average = 0ms
```

本体装置と通信できない場合は、クライアント PC のネットワーク設定や LAN ケーブルの状態が正しいか確認してください。

※ 他の機器が存在するネットワーク環境に接続する場合は、本体装置の初期 IP アドレスと他機器の IP アドレスが重複していないか確認してください。

3.1.2.3. 初期 IP アドレス変更 Web 画面への接続

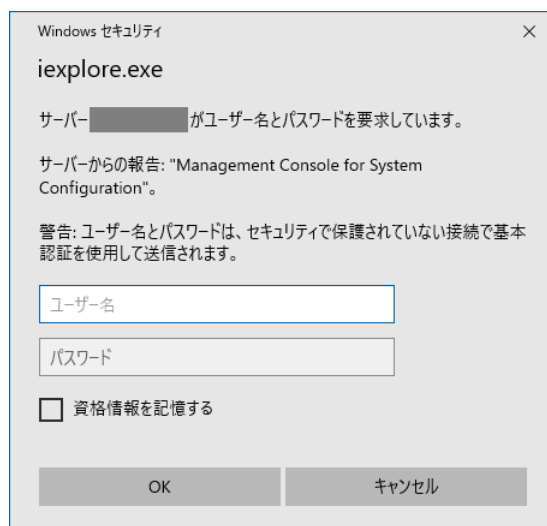
クライアント PC の Web ブラウザから MW400n の初期 IP アドレス設定画面に接続してください。クライアント PC の Web ブラウザから以下の URL を指定して接続してください。

https ではなく http ですので、ご注意ください。

http://192.168.250.250:50453/intersec-init-g/

MW400n と正常に通信できない場合は、設定されているネットワークと接続できるように、クライアント PC のネットワーク設定を確認してください。

MW400n に接続すると、ユーザ名とパスワードの入力ダイアログが表示されます。



以下のユーザ名、パスワードを入力して[OK]ボタンを押下しログインしてください。

ユーザ名 : root

パスワード : **初期パスワード** (※)



- ・ ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・ 初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しているパスワードを入力してください。

3.1.2.4. 初期アドレスの変更

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

(1) 「はじめに」画面が表示されます。[次へ]ボタンを押下してください。

はじめに language Japanese

ヘルプ

InterSec Initialize Network Configuration Tool

■はじめに

初期ネットワークアドレスの変更設定をおこないます。
[次へ]ボタンをクリックすると、初期ネットワークアドレスの変更設定を開始します。
[中止]ボタンをクリックすると、初期ネットワークアドレスの変更設定を中止しシステムをシャットダウンします。

中止 前 次へ

(2) 変更後の IP アドレスを指定します。

「ネットワーク設定」画面が表示されます。必要な項目に入力を行い、[次へ]ボタンを押下してください。IP アドレス、サブネットマスクは必須入力項目です。

ネットワーク設定 language Japanese

ヘルプ

InterSec Initialize Network Configuration Tool

■ネットワーク設定

初期ネットワークアドレスを変更します。
LAN1(eth0)ネットワーク、デフォルトゲートウェイの設定をおこないます。
*の付いている項目は、必須入力です。

*IPアドレス: 192.168.1.133

*サブネットマスク:

- 255.255.255.0
- 255.255.255.128
- 255.255.0.0
- 255.255.128.0
- 255.0.0.0
- 255.128.0.0
- 255.255.254.0

デフォルトゲートウェイ: 192.168.0.1

中止 前 次へ

- (3) 「設定確認」画面が表示されます。(2)で入力した内容をご確認ください。
入力した内容に問題がなければ、[次へ]ボタンを押下してください。

設定確認 language Japanese

ヘルプ

InterSec Initialize Network Configuration Tool

■ 設定確認

初期ネットワーク設定の内容を確認してください。

以下の設定でよろしければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。設定をおこないます。
[中止]ボタンをクリックすると、初期設定を中止しシステムをシャットダウンします。

IPアドレス :	192.168.1.133
サブネットマスク:	255.255.254.0
デフォルトゲートウェイ:	192.168.0.1

中止 前へ 次へ

- (4) ネットワーク設定が実行されます。初期導入を続けて行うには、しばらく経ってから以下の画面より、[初期設定画面]のリンクをクリックし、初期導入画面を開き、初期導入を行ってください。

初期ネットワークアドレス変更 language Japanese

ヘルプ

■ 初期ネットワーク変更

ネットワーク初期設定を行っています。
しばらく経ってから、以下のリンクより初期設定をおこなってください。

[初期設定画面](#)



重要

初期設定画面への接続は、MW400n の新しい IP アドレスにクライアント PC からアクセスできる必要があります。「3.1.2. クライアント PC (ブラウザ) による手順」で使用したクライアント PC を継続して使用する場合は、クライアント PC の IP アドレスも MW400n の新しいネットワークセグメントに合わせた変更が必要となりますので、ご注意ください。

以降は「4 章 初期導入」に従い、初期導入を行ってください。

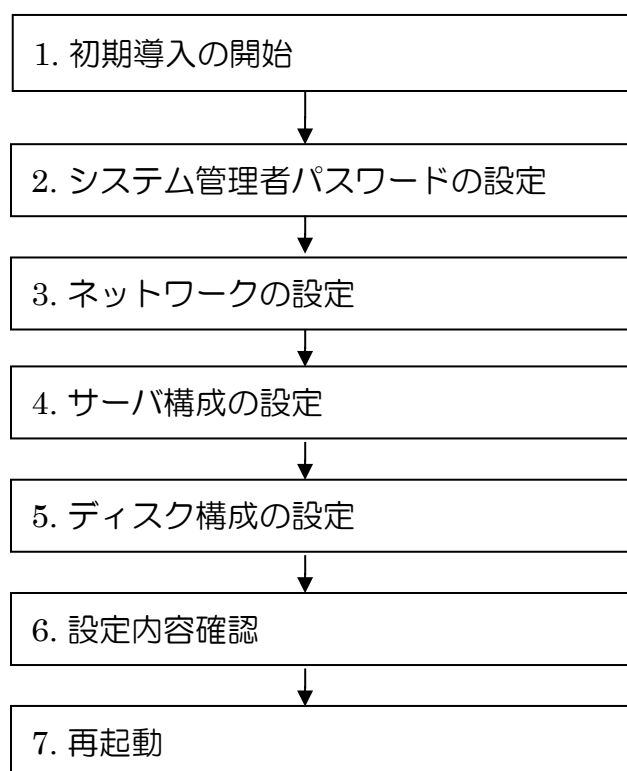
4章 初期導入

4.1. 初期導入について

MW400n の初期導入は、Windows クライアント PC(以下、クライアント PC)から Web ブラウザを使用して行います。

4.2. 初期導入の流れ

MW400n の初期導入の流れは以下のとおりです。運用するネットワーク環境に合わせて初期設定を行ってください。



4.2.1. 初期導入の準備

MW400n の初期導入は、「3.1. 初期 IP アドレスの設定」後に行います。

初期 IP アドレスを変更していない場合は、以下の設定となっています。

LAN ポート	: eno1
IP アドレス	: 192.168.250.250
ネットワークマスク	: 255.255.255.0
ホスト名	: intersec.domain.local

初期導入を行うため、MW400n をお客様環境に設置してください(業務 LAN 環境への接続など)。また、初期 IP アドレスで設定した IP アドレスに対して Web 接続可能なクライアント PC(Windows PC)を用意してください。

4.2.2. 初期導入画面への接続

MW400n の初期導入実行に際し、別途ご用意いただいたクライアント PC の Web ブラウザから MW400n への接続、およびログインを行ってください。

※ 以下の説明では、本体装置に設定した IP アドレスを「192.168.250.250」として説明します。適宜お客様で設定した IP アドレスに読み替えてください。

■ MW400n 初期導入画面への接続

MW400n の初期導入画面には、クライアント PC の Web ブラウザから以下の URL を指定して接続してください。

https ではなく http ですので、ご注意ください。

http://192.168.250.250:50453/

接続できない場合、クライアント PC 側から、ping コマンドなどを使用して通信状態を確認し、クライアント PC のネットワーク設定を確認してください。

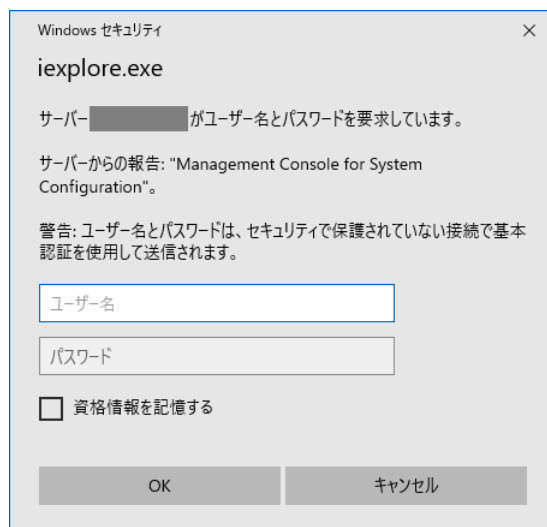
[実行例] C:\> ping 192.168.250.250



MW400n の IP アドレス設定状況を確認したい場合は、「6.3. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する」を参照ください。

■ MW400n 初期導入画面へのログイン

MW400n の初期導入画面に接続すると、ユーザ名とパスワードの入力ダイアログが表示されます。



初期導入画面のユーザ名、パスワードは以下のとおりです。

ユーザ名 : root

パスワード : **初期パスワード (※)**

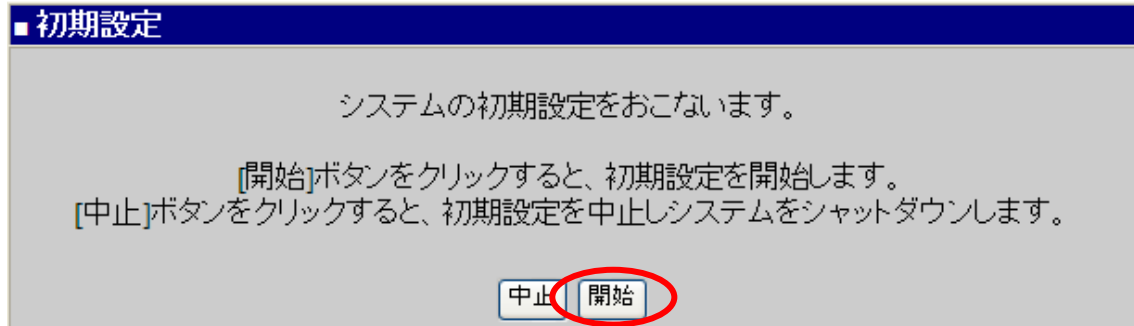


- ・ ユーザ名、パスワードは、大文字小文字を区別します。
- ・ 初期パスワード(※)は、本製品の『管理者用パスワード』に記載しているパスワードを入力してください。

4.2.3. 初期導入の実行

(1) 初期設定の開始

ログインが成功すると以下の画面が表示されます。[開始]ボタンを押下し、初期導入を実施します。



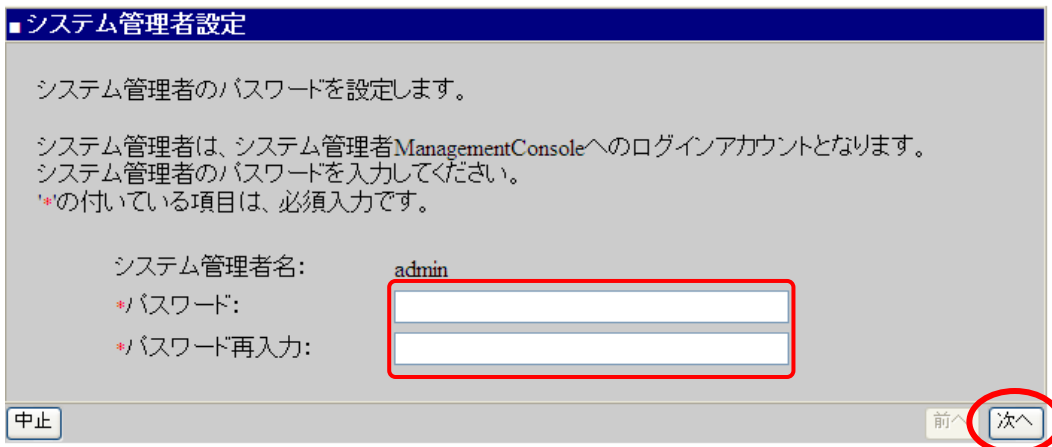
メモ：初期設定を中断したい場合は、各設定画面の[中止]ボタンを押下します。

(2) システム管理者設定

ここでは、システム管理者のパスワードの設定を行います。

システム管理者のアカウントは“admin”(固定)です。

システム管理者用のパスワードを[パスワード][パスワード再入力]欄に入力して[次へ]ボタンを押下します。システム管理者名のパスワードの指定は必須です。



メモ：初期導入完了後のシステム管理者のアカウントやパスワードの変更は、「システム管理者用 Management Console」で行えます。

(3) ネットワーク設定

お客様の運用ネットワークに合わせたネットワーク情報の設定を行います。

[ホスト名(FQDN)]にはセカンドレベル以上のドメイン名を含むホスト名を入力してください。

[ホスト名(FQDN)]、[IP アドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ]、[プライマリネームサーバ]、[セカンダリネームサーバ]項目に設定内容を入力し、[次へ]ボタンを押下します。

※項目名の先頭に*があるものは必須入力項目です。

項目名	設定内容
* ホスト名(FQDN)	MW400n の FQDN を設定します
* IP アドレス	MW400n の IP アドレスを設定します
* サブネットマスク	ネットワークマスクを設定します
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを設定します
プライマリネームサーバ	プライマリネームサーバを設定します
セカンダリネームサーバ	セカンダリネームサーバを設定します

メモ： IP アドレスとサブネットマスクは現在設定されているものが表示されますので、特に変更する必要はありません



「ホスト名(FQDN)」には以下の制限があります。

- ・ 英字はすべて小文字であること。(大文字は使用できません)
- ・ 各要素の先頭と末尾が a~z, 0~9 であること。
- ・ 各要素の途中の文字が a~z, 0~9, ハイフン「-」であること。
- ・ 個々の要素(“.”単位で切り分け)が最大 63 文字、全体で 230 文字。
- ・ すべてが数字で構成されていないこと。

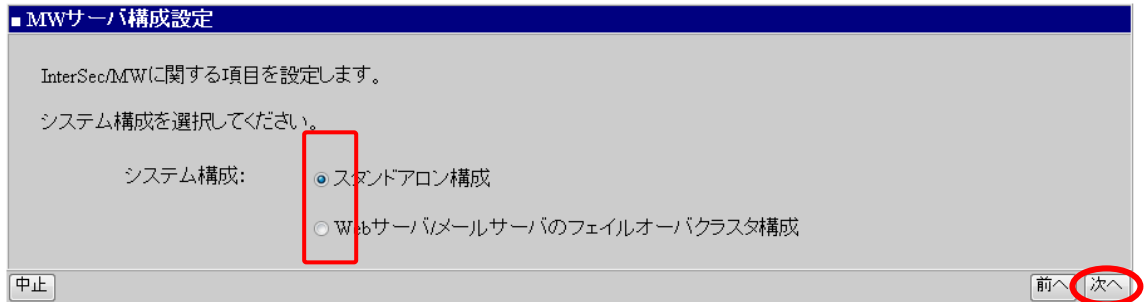
「ホスト名(FQDN)」は実ドメインのメールアドレスのドメイン部としても使用されます。

(4) MW400n のシステム構成を設定する

MW400n のシステム構成に関する設定を行います。

MW400n では、以下の構成を選択できます。

- スタンドアロン構成
- Web サーバ/メールサーバのフェイルオーバークラスタ構成



スタンドアロン構成

MW400n を 1 台で運用する構成です。
設定を確認後、[次へ]ボタンを押下します。

■ MWディスク構成設定

InterSec/MWに関する項目を設定します。
ディスク構成の設定をおこないます。

システム構成: スタンドアロン構成

ディスク構成: 使用するディスクを選択してください。
* ディスクサイズを変更するためには、一度初期設定を[中止]し、該当ディスクを再確保してください。

/home用ディスク: /dev/███ (最大███ GByte) を使用する(既定パーティション)

中止 前へ **次へ**

フェイルオーバークラスタ構成

MW400n を CLUSTERPRO X を用いた二重化(フェイルオーバークラスタ)で運用する場合の構成です。設定を確認後、[次へ]ボタンを押下します。

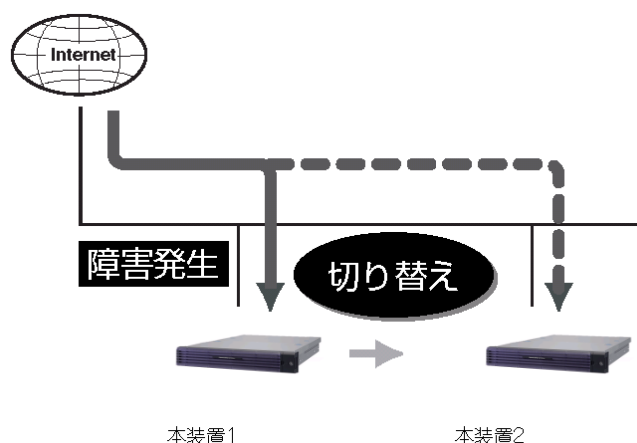
「ミラーディスク用デバイス名」

作成したデバイス名(/dev/sda7 もしくは/dev/sdb など)が表示されますので使用するデバイスを選択してください。

「ミラーサイズ」

指定可能な最大サイズ(GByte)が表示されますので、必要なミラーサイズを指定してください。

冗長化構成を組む二つの MW400n にミラー領域用として同一サイズシステムのサイズのバック/論理ドライブを作成しておく必要があります。



MWディスク構成設定

InterSec/MWに関する項目を設定します。
ディスク構成の設定をおこないます。

システム構成: Webサーバ/メールサーバのフェイルオーバークラスタ構成
ディスク構成: 使用するディスクを選択してください。
※ ディスクサイズを変更するためには、一度初期設定を中止し、該当ディスクを再確保してください。

ミラー用ディスク: /dev/sda7 (最大 GByte) を使用する(既定パーティション)
ミラーパーティションサイズ: GByte

※フェイルオーバークラスタ構成を構築する機器は、同じ設定にしてください。
※フェイルオーバークラスタ構成には、別途『二重化構成構築キット』オプションが必要です。
※『二重化構成構築キット』オプションは、初期設定完了後 Management Console 画面からインストールしてください。

中止



二重化(フェイルオーバークラスタ)構成を構築する場合は、別売りの『InterSec/MW 二重化構成構築キット』が必要です。

(5) 設定内容確認

入力した設定内容を確認してください。

設定内容に間違いがなければ、[次へ]ボタンを押下してください。

設定内容を変更する場合は、[前へ]ボタンを押下して変更対象画面に戻り、設定を修正してください。

■ 初期設定内容確認

初期設定の内容を確認してください。

以下の設定でよろしければ、[次へ]ボタンをクリックしてください。設定をおこないます。
[中止]ボタンをクリックすると、初期設定を中止しシステムをシャットダウンします。

■ システム管理者設定	
管理者名:	admin
パスワード:	
■ ネットワーク設定	
ホスト名(FQDN):	
IPアドレス:	192.168.1.100
サブネットマスク:	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ:	未設定
プライマリネームサーバ:	192.168.1.190
セカンダリネームサーバ:	未設定
■ MWサーバ構成設定	
システム構成:	スタンダードアロン構成
■ MWディスク構成設定	
/home用ディスク:	/dev/sda7

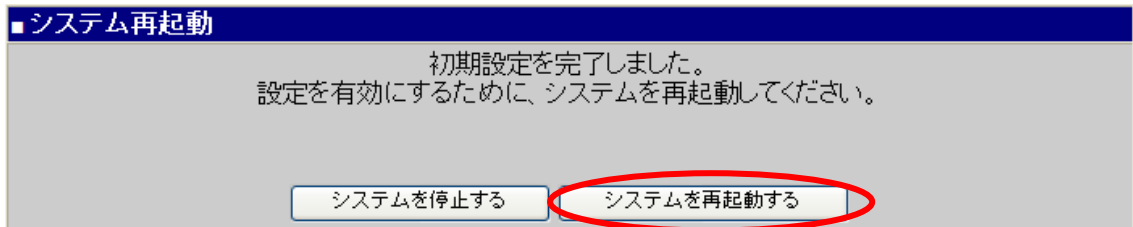
中止 前へ 次へ

(6) システム再起動

設定を有効にしてシステムを運用可能な状態にするため、システムを再起動します。

[システムを停止する]ボタンを押下した場合、システムは停止状態となりますので、再度起動(パワーオン)を行ってください。

[システムを再起動する]ボタンを押下した場合、システムの再起動を行います。



以上で初期導入は終了です。MW400nの詳細な設定や管理は、「Management Console」にて行います。詳細については、『ユーザーズガイド』を参照してください。



初期導入後の初回起動時に Express5800 に必要なドライバ等のインストール処理が実施されますので約 10 分程度 Management Console にアクセスできません。

二重化(フェイルオーバークラスター)構成にて構築する場合は、システム再起動後に自動で再度再起動が行われます。

5章 注意事項

1. EXPRESSBUILDER によるセットアップは行えません。InterSec 専用のインストールディスクからのみ実施できます。
2. 二重化(フェイルオーバークラスタ)構成の構築など複数台の MW400n を導入する場合は、必ず初期 IP アドレスを変更してから業務 LAN に接続してください。初期 IP アドレスを変更せず同時に業務 LAN に接続を行った場合、IP アドレスの重複が発生して正しく初期導入が行えません。
3. 「4章 初期導入」の実施後では、初期 IP アドレスは変更されたと判断し、「3.1. 初期 IP アドレスの設定」のいずれの手順でも IP アドレスの変更はできません。
なお、「4章 初期導入」実施後に IP アドレスを変更する場合は、「システム管理者用 Management Console」画面にて実施してください。
詳細は、MW400n の『ユーザズガイド』を参照してください。
4. MW400n への LAN ケーブル接続について
LAN ポート 1 を必ず運用時のネットワークに接続してください。
セットアップ(Web ブラウザを使用)では、LAN ポート 1 (システムでは、eno1 として扱われます)を使用して進めます。
LAN ポートとインタフェース(eno,ens)は、「6.1. LAN ポートとインタフェース番号について」を参照してください。

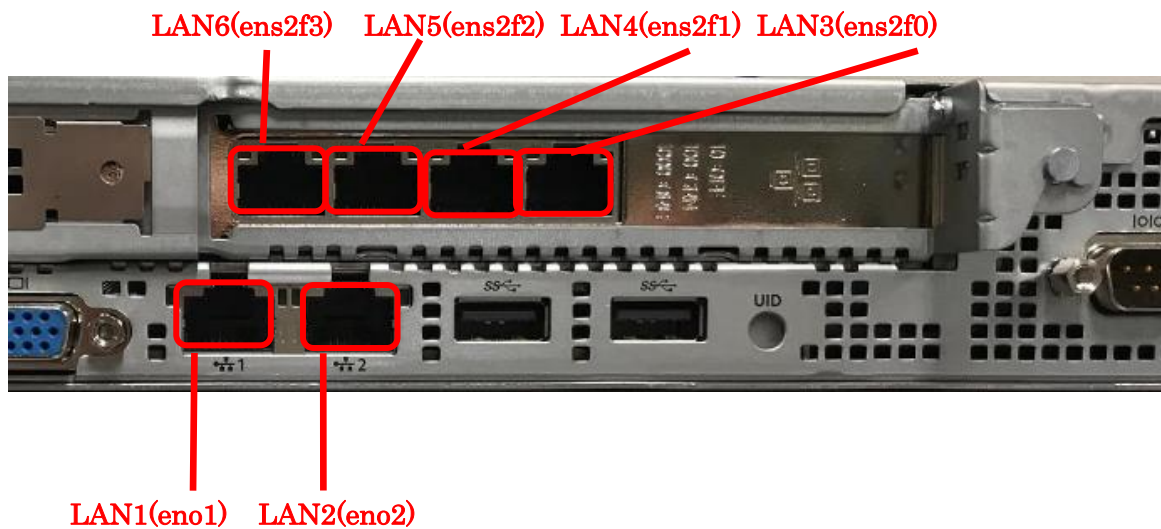
6章 付録

6.1. LAN ポートとインタフェース番号について

本体装置の LAN ポートとシステムが使用するネットワークインタフェース番号は以下になります。LAN ケーブルを接続する際は、ご注意ください。

- N8100-3004Y / Express5800/R110m-1

オプション NIC(N8104-209)搭載



6.2. ESMPRO/ServerAgentService を利用する

本体装置の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgentService」がインストール済みです。

ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体装置の温度などを監視する場合にこのソフトウェアを使用してください。

監視には、別途「ESMPRO/ServerManager」がセットアップされた PC(管理コンピュータ)が必要です。

詳しくは、『ESMPRO/ServerAgentService ユーザーズガイド(Linux 編)』を参照してください。



MW400n には「ESMPRO/ServerManager」をインストールできません。

6.3. 初期 IP アドレス設定後の IP アドレスを確認する

初期 IP アドレスの設定後に、正しく IP アドレスが設定されているか確認するためには、本体装置にディスプレイとキーボードを接続する必要があります。

「3.1.1. ディスプレイ/キーボードによる手順」の章を参考に、以下のコマンドを入力することで、現在、設定されている IP アドレスが表示されます。

root アカウントのプロンプトから以下のコマンドを実行します。

```
intersec-setupinfo
```

実行結果イメージ

```
[root@intersec ~]# intersec-setupinfo
IP address: 192.168.1.239
Netmask    : 255.255.254.0
Gateway    : 192.168.0.1
[root@intersec ~]# _
```

誤って初期 IP アドレスを設定した場合は、「3.1.1. ディスプレイ/キーボードによる手順」に従って、再度初期 IP アドレスの設定を行ってください。

なお、「4 章 初期導入」実施後に、IP アドレスを変更する場合は、「システム管理者用 Management Console」画面から実行してください。

詳細は、MW400n の『ユーザズガイド』を参照してください。

6.4. RAID 構成を確認する

- **N8100-3004Y / Express5800/R110m-1**

Express5800/R110k の『メンテナンスガイド(共通編)』－「1 章 便利な機能」－「b) メンテナンスの実行」－「(7) RAID の構成」を参照して確認してください。(改版により章番号が変更になる場合がございます)

(ご参考) 『Express5800/R110m-1 ユーザーズガイド』

製品型番：N8100-3004Y

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?NoClear=on&id=3170102700>

NEC
InterSec/MW400n
セットアップ手順説明書

2022年8月第1版
日本電気株式会社
東京都港区芝五丁目7番1号
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

© NEC Corporation 2022

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。